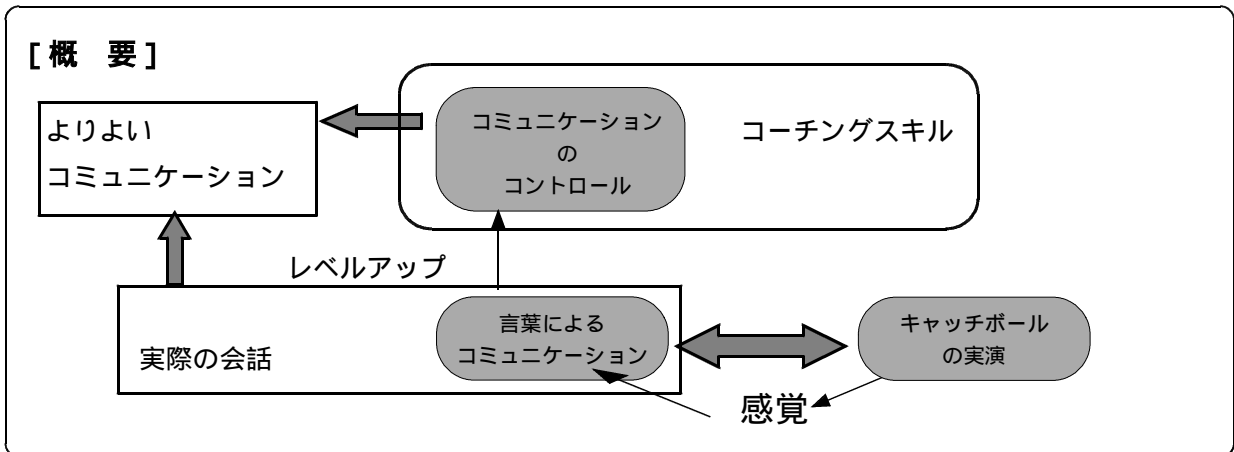


11 体験学習法を用いて、コーチングスキルの一つを学ぶ



コミュニケーションのコントロールについて、体験をしながら考えてみる

コーチングとは、会話を通して、相手に目標達成に必要なものを備えさせ、目標達成の行動をさせるプロセスである。コーチングスキルは何種類もあるが、その内の一つであるコミュニケーションのコントロールについて、模擬体験をしながら考察する。

人には、それぞれのタイプがあり、それを変えることはなかなか難しいが、コミュニケーションは自分でコントロールすることが可能である。そのためは、研修やトレーニングを重ねることが必要である。集合研修・自己学習・コーチング実習などにより身に付けることができるが、ここでは、日常の会話において、よりよいコミュニケーションの取り方を考えることを目標とする。

コミュニケーションを体験する

コミュニケーションをキャッチボールに例えて、実際にキャッチボールをしながら日常の会話を考えてみる。動きをともなう研修であり、童心に帰って楽しむ気持ちが大切である。

10人以内の4班に分けて、班ごとに実演を行い、班内で活発に発表し、班ごとに3つ程度の会

話例を全体の前で発表する。できれば、よいコミュニケーションの例まで発表できるのが望ましい。

研修会の運営について

- 1 準備
 - やわらかいボールを各班に3つ
 - 各教員に記入用のシート
 - キャッチボールの例を示したカード
 - コーチングに関する簡単な資料
 - コーチングとは？
 - コミュニケーションとは？
 - コーチングの基本とスキル 等々
- 2 会の進行
 - (1) 全体の司会を決めておく。可能であれば、コーチングの初歩を少し学習しておくことが望ましい。
 - (2) 後述の13のキャッチボールの例から、各班に(1)の例は必ず、その他の例から3つ程度をカードにして配布する。
 - (3) キャッチボールからイメージされ、しかも現実でありそうな生徒(や教員)との会話を考えてシートに記入するように司会が指示する。(2分程度)
 - (4) 司会の合図で、班ごとに代表2人が、(1)の例に相当するキャッチボールを数回行い雰囲気をはぐす。司会は、この時以下のような

会話の例を説明する。

(例) A : こんにちは

B : はい、こんにちは

A : 今日はいい天気ですね。

B : 本当にいい天気ですね。

次の合図で選択した別のキャッチボールを行う。イメージが湧かなければ数回繰り返す。

考える時間をとる。(5分)

(5) 代表を交代しながら別のキャッチボールを行っていく。(3×3=9分)

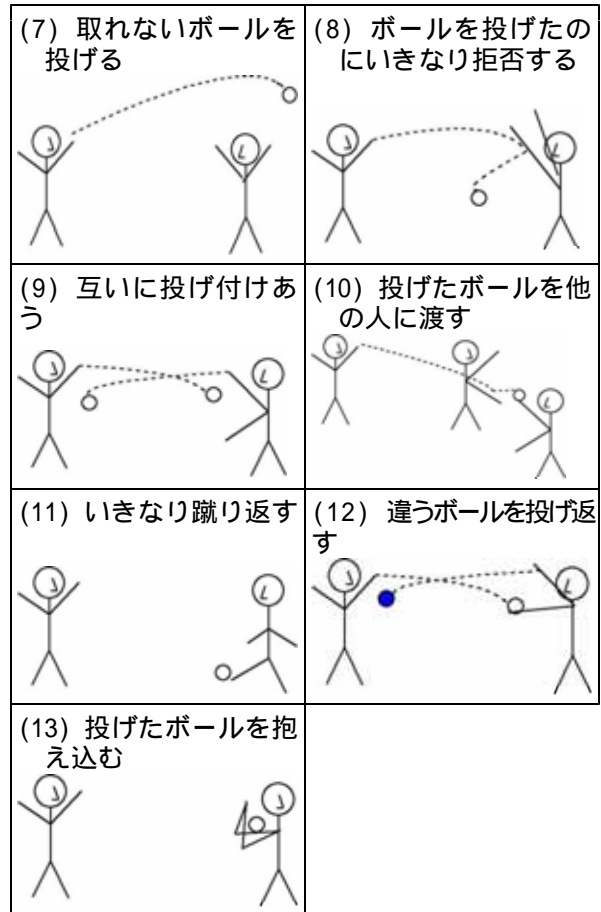
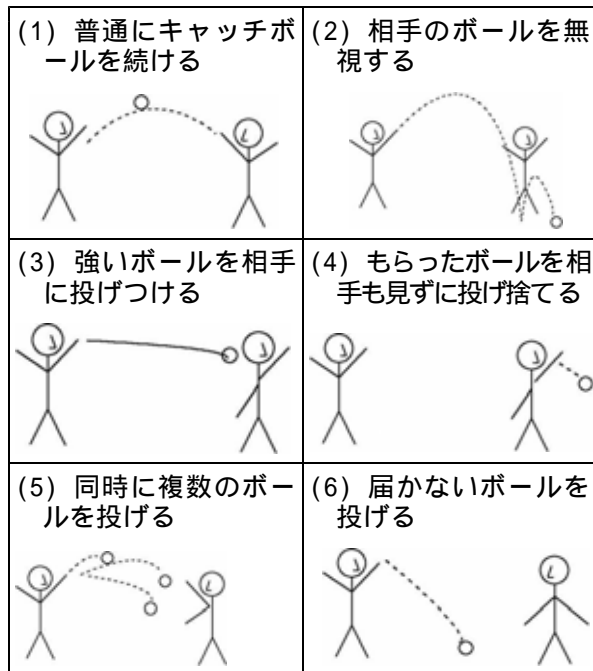
時間があれば、よいコミュニケーションするには、どのような会話であればよいかも考えてみるとよい。

(6) 班内で発表しあって、一番実際に近いと考えられるものを一つずつ決める。(10分)

(7) 全体で、班ごとにキャッチボールをしながら発表する。(15分) 会話を発表する者と実演する者は別の者でよいが、余裕があれば、会話をしながらキャッチボールができれば更におもしろい。

(8) 時間が余れば、コーチングスキルについて学習をしてもよいが、体験で得られる各自の感覚を大切にするためにも発表の時間を確保したい。

3 キャッチボールの例



研修の評価について

自由に感想を記入して提出し、まとめた後、当日の記録とともに配布する。その感想を読むことによっても、研修の効果が上がると考えられる。

校 内 研 修	校内研修の感想
コーチングスキルの一つであるコミュニケーションのコントロールについて体験!!	あなたが比較的興味を持ったのは、何番のコミュニケーションですか?
あなたの班の実演の番号	<input type="checkbox"/> 番
あなたが考えた会話の例	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> A: B:	どんな会話でしたか?
<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	その理由は何ですか?
メモ	<input type="text"/>
	本日の研修をおこなった感想を自由に書いてください。

記入用シート及び感想用紙

(参考文献)

「コーチングマネジメント」

ディスカヴァー・トゥエンティワン 伊藤 守 著

「こころの対話」

講談社

伊藤 守 著